

令和 2 年度 県立水海道第二高等学校自己評価表

No. 1

目指す 学校像	(1) 教育方針 豊かな人間性を培い、自律と協和の精神を育み、たくましい心身と優雅さを併せ持った、社会に貢献できる人材を育成する。 ① 確かな学力の定着に努める。 ② 生活指導の充実に努める。 ③ 進路指導の充実に努める。			
	(2) 努力目標 ① ・生徒の実態に即する適切な学習指導方法を工夫改善し、授業内容の充実に図る。 ・学習に対する自主的な姿勢の育成を図る。 ② ・心の教育を充実し、規範意識の向上を推進する。 ・健康・安全教育を推進し、特別活動を通して協調精神を養成する。 ③ ・適性・能力・興味関心等、個々の生徒の実態に応じた進路指導を展開し、希望進路の実現を目指す。 ・望ましい勤労観や職業観の確立を目指すためキャリア教育を推進する。			
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
本校は「キャリア重視型進学校」として普通科・商業科・家政科がそれぞれの特色を生かし、学習指導や進路指導、キャリア教育の充実に努めており、生徒の多様な進路希望に応じて一定の成果を収めている。生徒の能力を十分に発揮させ、より高い進路目標を掲げ実現させるためのさらなる学習指導や進路指導の充実に望まれる。基本的な生活習慣の身についた生徒が多いが、服装容儀や交通安全についての指導は今後も継続が必要である。平成28年度に全国大会三冠を果たしたハンドボール部を始めとした部活動も活発である。ホームページや緊急情報メール、また生徒が作成した学校PRビデオによる情報の発信も適切に行われており、開かれた学校づくりにさらに努めていきたい。		学力の向上	①授業や家庭学習に生徒が主体的に取り組めるよう、具体的な方策を講じる。 ②予習・授業・復習の習慣化により学習時間の確保に努める。 ③観点別学習状況の評価をとおして教科指導の工夫・改善に努め、魅力ある授業の展開を図る。 ④個別面談を学校全体の取り組みと位置づけ、他の指導と連動して学習意欲を高める面談指導を行う。	A
		進路指導の充実	⑤生徒の進路意識を高め、生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応する。 ⑥積極的な面接指導、的確な進路情報の提供、課外授業の充実に努める。 ⑦進路ガイダンス、進路講演会、インターンシップ等を通してキャリア教育を推進する。	B
		生活指導の充実	⑧毎日の登下校指導を行い、挨拶・声かけ運動の推進、清掃の徹底を図る。 ⑨豊かな心の育成と体験活動の充実により、規範意識の高揚を図る。 ⑩安全教育、特に交通安全教育を推進し、交通事故の絶無に努める。	B
		特別活動の推進	⑪学校行事の企画・運営を生徒中心に行い、自主的、実践的な態度を養う。 ⑫魅力ある部活動を展開し、加入率75%を目指して活気ある学校にする。 ⑬キャリアパスポートの円滑な導入に向けて準備をし、生徒に最善の活用方法を講じる。	B
		学校情報の積極的な発信	⑭ホームページや各種通信等により、教育活動の状況を積極的に発信する。 ⑮学校公開事業等を通して、開かれた学校づくりに努める。 ⑯緊急情報メールを適切に活用し、重要度の高い情報が確実に保護者に伝わるよう努める。	A
		働き方改革	⑰全職員の連携により業務の分担・効率化を図る。 ⑱部活動においては、練習方法を工夫するなどして、活動時間の短縮に努める。	A

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	評 価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	基礎学力の向上と入試に対応できる実力の養成を図る	基礎から応用へと段階的に学力を向上させる授業計画を作成し、学習目標が明確な授業を展開する。 ①②	B	計画的な授業展開や課題テスト等を行うようにする。全ての科目で年間指導計画やグラウンドデザイン作成を行い、家庭学習の習慣化などへ繋げる。
		各教科で計画的に課題提出や小テストを実施し、家庭学習の習慣化と家庭学習時間の伸張を図る。 ①②③	B	
国語	基礎学力の定着と向上を図る	基礎学力の定着・向上のために各種小テストを実施、また授業に主体的に取り組めるよう工夫を凝らす。 ①③	B	小テストなど継続的取り組みで基礎学力の定着に努めてきたが、今後はICT教材等も含め、家庭学習の在り方なども検討してより効果的な指導を模索したい。
		学習教材を精選し、教材への興味関心を抱かせ、知的好奇心を育む。 ①③	B	
地歴	基礎学力の向上と世界や日本の歴史的・地理的事象の学習を定着させる	基礎学力の定着と歴史的・地理的事象への関心を高める授業を展開する。 ①②	A	ICT（タブレットなど）を利用しながら、生徒が主体的に授業に取り組めるように内容を工夫する。
		地図・年表・資料などを活用し、社会的事象の認識を深めさせる。 ①②	B	
公民	基礎学力の向上と現代の社会について主体的な学習態度を育てる	基礎学力の定着と現代社会の諸課題を考える力を養う。 ①②	A	ICT（タブレットなど）を利用しながら、生徒が主体的に授業に取り組めるように内容を工夫する。
		政治や経済の諸課題から教科への関心を高め、学習の習慣を定着させる。 ①②	B	
数学	基礎学力の向上を図る	小テストや課題等を活用し、生徒の家庭学習習慣の定着を図る。 ①③	B	テスト直前の短期集中型学習から脱却し、毎日の継続的な学習ができるように指導する。アクティブラーニングの視点からの授業改善を図る。
		教材や授業展開等を工夫し、数学の楽しさやよさを実感させるとともに、表現力の向上に努める。 ①③	B	
理科	基礎学力の向上を図る	科学の基本的な概念や法則を理解させ、科学的に探求する方法を修得させる。 ②③	A	丁寧な授業展開で、生徒が学習内容の理解をより深めていけるようにする。器具や薬品など実験室の整備をすすめ、実験・観察の機会を増やしていきたい。
		実験・観察を通して、科学的な見方や考え方を養う。 ②③	B	
保健体育	基礎体力の維持・向上を図り健康や安全に関する知識を高める	各種の運動を合理的に行う実践力を見につけさせるとともに自己の体力の高め方を学ばせる。 ②	B	自己の健康を管理し、生涯にわたり継続して楽しく運動に親しむ姿勢を身に付けさせられるように指導に努める。
		個人や集団における健康の保持増進、将来に向けての基本的な生活習慣の確立をさせる ⑨	A	
芸術	芸術を愛好する心情と表現活動の向上を図る	生徒一人一人の個性に応じた指導を行い、技術の向上を図る。 ①③	B	基礎的な技能を身につけ、表現力を高めるとともに、他教科との関連を大切にしながら、芸術を愛好する心を育てたい。
		基礎的な技能と創造的な表現の力を伸ばす。 ③	A	
英語	基礎学力の向上を図る	小テストや週末課題を課すなどで、予習・復習を含め、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ①	B	基本的な文法知識の定着を目指し、継続的な指導に努める。英語を活用する力を育成するため、4技能をバランスよく指導する。
		ALTや副教材を有効活用し、授業の工夫を通じてコミュニケーションをとるための基本的な姿勢と学力を身につけさせる。 ③	B	
家庭	生活に必要な知識・技術の習得と問題解決能力の育成を図る	家庭に関する各種検定に取り組むことにより、知識・技術の向上を図る。 ①③	A	実習の制限がある中で、コロナ禍の現状を考慮し工夫しながら授業を展開し、例年通りの検定を実施することができた。地域との連携が難しい昨今であるが、オンライン等での交流も含め検討することが必要である。
		家庭クラブ活動や課題研究、地域と連携した活動を通して問題解決能力の育成を図る。 ⑤⑦	A	
情報	情報モラルを身に付け、情報・情報技術を活用する知識・技術を習得させる	実習を通して将来に役立つ知識と技能を習得させる。 ②③	B	情報処理能力を身に付け、高度情報化社会の中で必要な情報活用能力の醸成に努めていく。生徒が各種資格試験に積極的にチャレンジする指導を行う指導を行うことが課題である。
		実習や課外授業を通して理解度を高めるとともに、検定合格を目指す ②③	B	
商業	生徒の進路希望実現に向けて、魅力ある授業の展開及び資格取得の向上を図る	家庭学習の徹底、小テスト等の実施をととして各科目の理解度を確認し指導を深めていく。 ①②	A	コロナ禍の限られた時間の中で、授業、課外、検定指導と生徒の学習意欲を高める工夫ができた。今後も各種検定試験合格や進路実現に向けた、面倒見のいい指導を継続することが課題である。
		チーム・ティーチング、習熟度別学習、課外指導等をととして、理解度や検定合格率的アップを目指す。 ③	A	
教 務	生徒の学力向上をめざした学習指導の実施に努める	授業時間数や授業時間（５０分）の確保に努める。 ①	B	新学習指導要領対応のカリキュラムが完成し見直しも行った。ICT機器を利用した授業展開も多くなり、次年度以降のGIGAスクール構想にも何とか対応できそうである。今年度の休校期間中も多くの授業配信（約200）を行い、生徒も良く取り組んだ。今後の授業配信のシステム構築と利用法が課題である。
		わかる授業を目指して、生徒が主体的に取り組むことができる教科指導の充実・改善を図る。 ①③	A	
		学習に対する積極的な姿勢の育成を図る	①	
生徒指導	基本的生活習慣を確率させる	各教科・学年との連携を図り、家庭学習の習慣化と内容の充実を目指す。 ①	B	
		個別面談等で生徒理解を深め、生活や学習活動についての確かなアドバイス及び支援をしていく。 ④	A	
		個別面談等で生徒理解を深め、生活や学習活動についての確かなアドバイス及び支援をしていく。 ④	A	
生徒指導	交通マナーやモラルを向上させ、事故防止に努める	毎日の登下校指導時に挨拶、声かけを積極的に行い、職員の共通理解のもと、遅刻指導や服装指導に当たる。 ⑧	A	交通事故件数は昨年から減少しているが、重傷事故が発生しないように、関係諸機関との連携を強化して事故防止にあたりたい。不審者・変質者被害件数はなかったが、来年度も見回りの継続と注意を喚起していきたい。問題行動件数はさらに減少した。服装指導ではスカートの短さや化粧に関する指導を徹底する。
		学年間の連携・協力体制を強化し、共通理解・共通認識のもと全職員で服装・頭髪指導に当たる。 ⑨	B	
		マナーアップ教室、薬物乱用防止教室、LHR等を通して規範意識の向上と豊かな人間性の育成を図る。 ⑨	A	
進路指導	生徒個々の進路希望を実現させるためのさまざまな働きかけや支援をする	交通安全講話、バイク実技講習等の安全教育を充実させ、交通マナーの向上を図り、事故防止に努める。 ⑩	B	
		自主的・積極的に進路を考え、努力していく意識を高めるための情報を提供する。 ⑤⑥⑦	A	
		面接や課外授業などの充実を図る。 ⑤⑥	B	
進路指導	3年間を通じての体系的な進路指導体制の構築を図る	生徒の進路意識の推移を分析・検討し、課題を明確化する。 ⑤	B	新入試制度の混乱やコロナ禍による就職試験・大学入試の時期や内容の変更があったがおおむね進路希望を達成できた。一部進路変更を余儀なくされた生徒もあり、状況の変化に応じて対応できる基礎学力の定着を早い段階からはかっていく必要がある。進路行事に関しては各学年とも工夫しながら実施でき、課題も明確になった。
		3年間を見通した進路計画を構築する。 ⑥⑦	B	

保健厚生	生徒の健康の保持増進を図る	保健調査及び定期健康診断をもとに個々に合わせた保健指導を行う。	①～⑫	A	A	次年度もコロナウィルスの影響下での学校生活が間違いないと思われる。そのため、生徒が感染しないための予防指導が最も重要になる。また、感染生徒が出た場合も学校がクラスター化しないための方策を講じておく必要がある。さらに、精神的な不安を抱く生徒に対するケアをできるようなシステム作りや取組み方を構築しておくことも重要となる。
		感染症予防並びに拡大防止に努める。	①～⑫	A		
		教育相談体制を充実させ、より良い生徒支援を行う。	①～⑫	B		
	学習環境の美化及び整備に努める	生徒が安全な学校生活を送るための点検や校内巡視を行う。	①～⑫	A		
		全生徒による大掃除と年2回のワックス塗りを行う。	①～⑫	B		
		校内のゴミの分別と減量化を図る。	①～⑫	B		
特別活動	文化部・運動部及びホームルーム活動の活性化に努める	部室や練習場の清掃、挨拶の励行を通し、生徒の意識改革を促す。	⑧⑪⑫	B	B	コロナウィルスの影響で多くの学校行事が中止になった。次年度も状況が変わらない場合、どのように学校行事を行っていくか検討が必要である。生徒会に主体性があり、引き続きHRと連携を密にして学校の活性化を目指す。
		様々な大会へ積極的に参加して、活気ある部活動を目指す。	⑫	B		
		生徒会行事等を通して自主的な活動によりHRの連帯感を高める。	⑪	A		
		生徒会とHRの連携を密にしてHRの意見を反映し学校の活性化を目指す。	⑪	A		
		キャリアパスポートの円滑な導入と、最善の活用方法を目指す。	⑬	B		
情報	情報機器の維持、成績処理の援助、情報発信の充実	情報機器の維持及び適切な管理に努める。	①	A	A	コロナ収束後も、ICT教育に関しては推進されていくので、特定の教員だけではなく、全体のスキルアップが必要である。
		成績処理システムの円滑な運用に努める。	③	A		
		緊急情報メールの活用やホームページの更新を通して、情報発信の充実に努める。	⑭⑮	A		
図書	生徒の学習や文化・芸術的素養の伸展を支援するため、図書室の充実を図る	図書室の環境を整備し、利用しやすい図書室にする。	①⑤	A	A	引き続き、生徒・教職員が利用しやすい図書館となるよう、環境の整備に努める。新刊本の紹介・授業での図書館利用等をととして読書の推進を図る。
	文化・芸術的素養の伸展のために読書の推進を図る	図書館報と新刊本案内発行、文学散歩等の図書関連行事の活性化を図る。	①③⑮	B		
渉外	PTA行事への保護者の参加を積極的に呼びかけ、家庭との連携を密にする	PTA役員会・PTA総会・支部総会・学年PTA・PTA関東大会及び全国大会への積極的な参加を呼びかけながら、開かれた学校づくりに努める。	①～⑪	B	B	PTA総会や支部総会の出席率の向上のため、内容の検討を行う。
第1学年	基本的な生活習慣の確立を目指す	時間や行動の自己管理能力向上を目指し、遅刻を減らし、校則を守らせる指導をする。	⑧⑨	A	A	基本的な生活習慣の確立や挨拶の徹底を継続したい。基礎学力については、コロナ禍ではあったが、授業展開の工夫や課題、小テストなどを盛り込んで学力の保障ができた。豊かな心については人間関係を意識しながら各自行動できたのではないかと。しかし、コロナ禍により、不安を抱えた生徒もいて早め早めの対応を考えなくてはならない。
	基礎学力の向上を目指す	挨拶を始めとするコミュニケーション能力を高め、より良い人間関係を築く力を育む。	⑧⑨	B		
		個人面談や進路学習を重ねて進路を明確化することで、授業や自宅学習に意欲的に取り組ませる。	①④⑤	B		
		各学科の特性が活かせるよう、学科ごとに設定されている課題にきちんと取り組ませる。	①⑥	A		
	豊かな心の育成を図る	部活動等の教科外活動に積極的に参加させ、他者との協調を図りながら自ら考え動く意識を高める。	⑪⑫	A		
第2学年	生活指導の徹底と心豊かな人材の育成	服装頭髪指導、遅刻指導、清掃指導を徹底し、落ち着いて学校生活が送れる環境を整える。	⑧⑨	B	B	家政科や商業科は検定試験という目標に向かいしっかりと学習に取り組んでいた。普通科については、少しずつ目標に向かい学習する習慣が身についてきた。次年度は、大学入試改革の2年目になるので、傾向を分析し、しっかりと対策が必要である。生徒指導については、指導していく中で、生徒指導部等と連携を図りながら指導していく必要があると感じた。
		学校行事や部活動を通して、自ら考え動くことができる人材となれるように指導する。	⑪⑫	A		
		規範意識を養い、人とかかわり方を学ながら集団生活の中で自身の役割を果たせるよう支援する。	⑨⑪	B		
	進路希望を明確化し、その実現への努力を促す進路指導	進路別バス見学会や進路ガイダンスを通して、適切な進路選択に必要な進路学習をさせる。	⑤⑦	B		
		生徒との個別面談を密に行うことで生徒理解を深め個々の生徒がライフプランを真剣に考える支援をする。	⑤⑥	A		
		学年通信や保護者面談資料などを通して、進路情報を保護者に適宜提供する。	⑭⑮	B		
	授業を中心に据えた学習指導	授業への積極的な取り組みを促し、さらに、授業を活かすための家庭学習の定着を図る。	①④	A		
		学年と授業担当者が連携して、学習の遅れている生徒に細やかな指導をする。	①④	A		
		平常課外や長期休業中の課外を実施して、授業の学習内容を深く理解できる場を提供する。	①⑥	B		
第3学年	学力の向上を図り、個々の生徒の進路実現を目指す	家政・商業・普通科それぞれの学科の特性に合わせた指導を行い学力の向上を図る。	②③	A	A	就職指導については、コロナウィルスの影響で日程が変更となり、景気後退の影響を受けて求人数が厳しい中、例年並みに就職希望者が内定を得ることができた。進学については、大学入試改革の初年度ということや景気の影響で、一般受験を目指す生徒がやや減少した。生徒指導に関しては、特別指導こそ少なかったものの、服装等の指導や感染予防を学年全体での指導を行っていく必要がある。
		各種のガイダンスや個別面談等を実施し、個々の適性能力に応じた進路希望の実現を目指す。	⑤⑥	A		
	生徒指導の徹底及び基本的な生活習慣の充実に努める	保護者との連携を密にし、基本的習慣の充実に努める。	⑧⑨	B		
		社会のルール遵守し、モラルの向上に努める。	⑧⑩	B		
		生徒指導部との連携を図り、日々の生活を通してよりよい高校生活の実現を目指す。	⑧⑨	A		

※ 評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：不十分である D：できていない